菊と小さな預かり者

椛桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
菊と小さな預かり者

【Ｎコード】
Ｎ２６６４Ｕ

【作者名】
椛桜

【あらすじ】
イヴァンさんと菊さんの話です。

読む時の注意
・ただの俺得
・意味不明
・漢字分からない
・色々変
・ちょっとＢＬっぽくなるところがあるかも（善処はします）

・間違って国名で書いてあるかもしれない
・誤字・脱字多い

etc…

小さな少年（前書き）

読む時の注意

・ただの俺得

・意味不明

・漢字分からない

・色々変

・ちょっとＢＬっぽくなるところがあるかも（善処はします）

・間違って国名で書いてあるかもしれない

・誤字・脱字多い

ｅｔｃ…

小さな少年

朝。

いきなりの電話。

「誰でしょうか・・・・アーサーさんでしょうか・・・・それともー・・・」

ぶつぶついいながら電話の方へ歩く。

アルフレッドさんかアーサーさんだろうなぁと予想しながら受話器をとった。

「もしもしー」

でも相手はどちらでもなく。

「やあ！菊君。おはよう！」

イヴァンさんからでした。

ガチャンッ

「あっ・・・やっちゃった・・・・」

驚きのあまりつい受話器を戻しちゃいましたよ・・・

「・・・かかってきませんね・・・・」

ふぅ・・・・・

ため息をついて一安心・・・・

リリリッ　ガチャッ

「はっはい！？」

できませんでした。

「びっくりした？ねぇ。なんでさっき切っちゃったの？」

「いやー・・・・びっくりしてぇ・・・・・」

「ふぅん・・・・まあいいや」

ふぅ・・・・何も無くてよかった・・・・

「あのさ」

「はい？」

「今日君の家に行っていいかな？」

「・・・・・はい？」

「いや・・・・・だからー」

「何故・・・・ですか？」

「行きたいから・・・・じゃー駄目なのかな？」

「駄目ではないんですが・・・・・」

珍しい！

いくらなんでも珍しすぎる！

裏があるんじゃないんでしょうか・・・・

いやいやいや・・・

せっかく来ていただけるんですからね。

えぇ。しっかりもてなしましょう！

「分かりました。・・・で。いつこちらに？」

「もういるよ？」

「へ？」

窓から門の外を覗く。

「・・・・あぁ。早いですね・・・・・」

「うふっ☆」

「・・・・」

電話を切って玄関へ。

「どうぞお入りください」

「うん。お邪魔するよ」

はぁ・・・なんでこんなことに・・・・

もう嫌ですよ・・・もう疲れました・・・・

何故許可してしまったんでしょう・・・

拒否しておくべきでした・・・・

・・・いまさら後悔しても遅いですね・・・・

諦めましょうか・・・・

「ねえ菊君。何か飲み物ない？」

「あっ今お茶入れますね」

「うん。ありがとう」

まあこんな感じに時を過ごしました。

案外普通に事が進み今日は大丈夫かもなぁと思い始めた頃。

「じゃあ僕そろそろ帰るね」

「え？あぁ、はい。分かりました」

「ばいばい！菊君！」

手を振って送り返し

ほっと安心した瞬間。

ギュッ

「わっと！！？」

腰のあたりに何かが抱きついて・・・・・

え？

確認してみるとそこには少年が。

「・・・・・」

なんかじーーーっと私のこと見ているんですが・・・・

あれ？

なんかよく見ると誰かに・・・・

あ。イヴァンさんに似て・・・・・

る。というか彼ですね。

なんか体が縮んだ感じですね。

って・・・・え？

この子どうしましょう・・・・

と・・・とりあえずイヴァンさんに電話でもしましょうか。

小さいイヴァンさん

「あのーもしもしイヴァンさんですか？」

「うん。そうだけど？」

「・・・・」

今何をしているのかって？

イヴァンさんにいろいろ問い詰め・・・・聞こうとしてるんです。

「この子誰ですか？」

「ん？どの子？」

「イヴァンさんがそっくりそのまま小さくなったかのような少年のことです！」

「あー・・・・もうばれた？」

「ばれたってなんですか！ばれたって！」

「いやさー起きたら枕元にいてね？サンタさんからのプレゼントかなー」

「それは無いですよ。いくらなんでも季節外れすぎます」

「そう？」

「えぇ」

「そっかー・・・・」

「で。何故私に？」

「君なら預かってくれそうだったから」

「私以外にもー・・・・」

「もう断られたよ？」

「妹さんは・・・・」

「預けたらどうなると思う？」

想像してみる。

「すみません」

もちろんこの子がかわいそうになってしまった。

「でしょ？」

「お姉さんは？」

「預かりたいのは山々だけどお金がーだって」

「あぁ・・・・」

「だから君しかいなかったんだよね」
「だからって置いていかなくても・・・」
「話したら君引き取ってると思う？」
「思いません」
「だからにきまってるじゃん」
「そういうことですか」
「でもこちらにも準備とかあるんですよ・・・」
「それはごめんね。でもこうするしかなかったし・・・」
「自分で。は駄目なんですか？」
「・・・だって育てられる自信ないし・・・・」
「自信がないって・・・」
「それに菊君の家のほうがいいと思ってさ」
「私の家のほうが？」
「暖かいしー四季は全部きれいだし」
「まあ。わかりましたよ」

「本当に！？ありがとう！」

「いまさらロシアまで連れて行くのも億劫ですし・・・・・」

「ありがとう！じゃあね！」

「あっ・・・・・」

切られた・・・

「・・・・」

小さいイヴァンさんが見つめてくるんですが・・・・

「お腹減った・・・・・」

「・・・・あぁ！御飯にしましょうか！」

こうして小さいイヴァンさんとの生活が始まった。

こっちは可愛いのに

「菊お兄ちゃん」

何故私を兄と呼ぶのでしょうか。

「ねえ・・・」

「はい？なんでしょうか」

「眠い・・・」

「・・・寝ましょうか」

「うん」

まだ9時で仕事もたくさん残ってるんですがね。

小さいイヴァンさんは可愛いですねー・・・

イヴァンさんもこれぐらい可愛げがあればよかったのですが・・・

「むにゃ・・・・」

おや・・・寝たようですね。

仕事しましょうか・・・

「ん・・・やー・・・・」

袖を握られましたね・・・
仕事が・・・・
ふわぁ～・・・・
ついあくびが・・・・
私も寝ますか・・・・

眠れない。
いつもより早すぎるんですねきっと。
どうしましょう
彼は離してくれませんし・・・・
あ。そういえば・・・
「あのーイヴァンさん？」
「なあに？菊君」
「一つ聞き忘れたことが」

「うん。なあに？」
「いつ迎えに？」
「・・・・・・・・・」
「・・・・・・・え？」
「いつだろうね☆」
「いや・・・☆じゃないですよ！」
「んー・・・・」
「あっ・・・・」
「どうしたの？」
「いや・・・彼が今寝ているもので・・・・」
「あ。そっか」
「で？いつ？」
「わかんないよ・・・・」
「はい？」
「分かんないの」

「・・・何故」

「うーん・・・秘密」

「言ってください」

「えっとねー仕事がつまってて・・・」

「つまり？」

「しばらくは無理かなーって」

「・・・そうですか」

「できるだけ早めにはするけど遅くなったらごめんね？」

「はい。分かりました。もう結構です」

「そう？じゃあねー」

「・・・・しばらく。ですか・・・」

当分帰ることは無さそうですね・・・・

頑張りますか・・・・・

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2664u/

菊と小さな預かり者

2011年10月9日06時36分発行